

第53回 国際福祉機器展&フォーラム



毎年恒例のHCR(リアル展)が、今年も10月7日(水)から9日(金)の3日間、東京ビッグサイト東展示ホールで開催されました。Web展は9月1日(火)から11月13日(金)の日程で開催されています。ご興味のある方はまだ間に合いますのでぜひ覗いてみてくださいね。アジア最大級の福祉機器展であるHCR。一日では回りきれないほど多くの出展ブースや、各所で開催されるセミナー、福祉機器に熱い思いを持った人々の熱意など、見どころが盛りだくさんで、大変充実した時間を過ごせました。一方で、情報量の多さに頭がパンクしそうになるほど……。持ち帰った資料をじっくり振り返りながら、皆さんのお役に立つ情報をお届けできるようにしたいと思います。

広い会場で展示されていた、たくさんの最新機器・福祉機器の展示の中から、当センタースタッフが見つけた「あなたに教えたい」逸品をご紹介します！

ちょっと気になる？！ 福祉機器のご紹介

ラッコベース

株式会社ウェルパートナーズ (写真はカタログより引用)

車椅子上で安定した姿勢を保つことは、快適に過ごすための大切なポイントの一つです。ラッコベースは、いつもの車椅子の背もたれに簡単にに取り付けて使用でき、柔軟な背ベースと8種類のパッドを組み合わせて、利用される方の身体の状態に合わせて調整できるのが特徴です。



私(理学療法士です)も実際に座ってみました。安定感があり、安心して座れる印象を受けました。一人ひとりの身体に合わせた姿勢づくりをサポートできるため、日々のリハビリや介護の現場でも、利用者さんがより安定した姿勢で自分らしく過ごせるよう支援する用具として、活用が期待できると感じました。 <有馬>



Universal Tape

株式会社Nissili (写真はHPより引用)

日常で使用している物品に、このテープを巻くだけで、誰でも簡単に自助具が作れるシリコン製のテープです。使い方は引っ張りながら巻くだけ！！巻いたものを食洗機に入れたり、洗剤で洗ったりすることもできます。はがした際にもべたつきが残らないためレンタル品などにも使用することができます。用途や作り方はアイデア次第で無限大∞！スプーンを太柄にするもよし、手すりに巻いて滑り止めにするもよし。さまざまなアイデアはHPをご確認ください。

私は手先が不器用なタイプの作業療法士ですが、そんな私でもきれいに仕上げることができました。用意するものは鋏だけで、誰でも簡単に使えるというのは本当に魅力です。色がたくさんあって選べるのも良いですね。 <清水>



ここちあ結起 Rise (ゆうきライズ)

PARAMOUNT BED (写真はHPより引用)

新しく発売されたエアマットレスを体験しました。全自動での設定が可能で、エアマットレスの面倒な設定調整から解放されるとともに、姿勢や背角度にも合わせての調整もしてくれる優れもののマットレスです。エアセルの下に臀部サポートセル・背上げサポートセルが入っており、姿勢を立体的に支えると同時に、背上げ時のズレや圧迫感も軽減することでした。実際に体験すると、サポートセルの中でも嚙下をサポートするというヘッドアップセルは自然な姿勢変換と心地よいギャッジアップ座位を実現しており、いつまでも座っていたい心地よさでした。ベッド上で過ごす時間が長くなりやすい利用者様の選択肢の一つとして、活躍が期待できると感じました。 <清水>



リハビリテーション・ケア合同研究大会 高知2026

今大会は、「あるがままに生きる～生きるとは何か～」をテーマに、10月8日・9日の2日間、高知県で開催されました。会場はホテルなど4か所に分かれており、各会場でさまざまなプログラムが行われました。本大会は、複数の団体が合同で開催する学会であり、多職種の方々が参加することが特徴です。今年は特に、若い世代の参加者が多い印象を受けました。プログラムは、講演やシンポジウムが比較的少ない一方で、一般演題の発表が多く設けられていました。また、ポスター演題もモニターを使用した発表形式であり、口述発表に近い形で行われていました。演題の内容は、病院から地域まで幅広い領域にわたり、多岐にわたる興味深い取り組みが紹介されていました。一方で、発表に対する質問が全体的に少なかったことは、残念に感じました。

支援センターの活動としては、過去5年間にわたり取り組んできた「地域連携構築推進事業」について、口述発表を行いました。支援センターの活動や実践を広く知っていただくとともに、他の参加者との情報共有や今後の活動につなげるうえでも、学会での発表は重要であると考えます。今後も、こうした学会の機会を活用し、支援センターの活動を継続的に報告するとともに、他団体の取り組みや最新の知見を学び、今後の活動に生かしていきたいと思います。



●印象に残ったプログラム：開催地企画シンポジウム06 脳損傷者の社会参加を促す当事者研究●

本シンポジウムでは、脳損傷者の社会参加を促進するための当事者研究をテーマに、発症後のリハビリテーションの過程において、当事者の主体性を育み、社会参加につなげるための支援のあり方について検討されました。

退院後の在宅生活では、身体機能が改善しても、必ずしも生活の再構築や社会参加につながらず、閉じこもりがちになるなど、地域生活に困難を抱える方も少なくありません。その背景には、リハビリテーションが受動的なものとなり、本人が主体的に目標を設定し、自らの生活を構築していく機会が十分に得られていないことも考えられます。

今回のシンポジウムでは、脳損傷の当事者から、発症後のリハビリテーションの過程で主体性を育むための支援として、ピアサポートの重要性が報告されました。

当事者の主体性は、本人の意欲や努力だけに委ねられるものではありません。安心して過ごせる生活環境、同じような経験を持つ仲間との出会い、そして自分自身の経験が他者の役に立つという実感が、主体性を育む重要な要素であると述べられました。また、ピアサポートは、単に経験を共有し互いに支え合う活動にとどまりません。当事者自身の経験を社会資源として地域に還元することは、当事者が支援を受ける側から支える側へと役割を広げていく機会となります。こうした経験の循環が、当事者自身の成長や社会参加を促進する実践につながることが示されました。

さらに、リハビリテーション支援者には、当事者同士が出会い、交流できる場を設けることや、グループ活動を促進することを通じて、当事者の主体的な活動を後押しする役割が求められると報告されました。

今回のシンポジウムを通じて、リハビリテーションでは、身体機能の改善・維持に加え、当事者が自らの経験や強みを生かし、地域の中で役割や居場所を築いていくことが重要であると改めて認識しました。

今後は、当事者の思いや希望を尊重しながら、仲間とのつながりや地域活動への参加機会を広げ、当事者が主体的に生活を再構築していく過程に伴走できる支援を目指していきたいと考えます。

<小泉>



天気にも恵まれ
美味しい旅でした



地域リハビリテーション連携構築推進事業

2026年度は、

湘南東部地区と**湯河原・真鶴地区**

で開催予定です。

日程やテーマなどの詳細は、決定次第にご案内いたします。



リハビリテーション専門研修(報告)

7.18 Sat. 車いすシーティング

座り崩れが引き起こす健康被害の重大さや、体格や身体機能に合わせた車いすを選択すること、背ベルト等を調整することで座り心地が全く異なることを講義・実習を通して学びました。また、多職種でシーティングを検討するために有益なツールの紹介もあり、グループワークを通して理解を深めました。

○参加者の声○

- ・不良姿勢による弊害を学べたことでシーティングの重要性を再認識することができました。とても分かりやすい説明で理解が深まりました。
- ・見るのと実際にやるのとは大きな違いがあり、貴重な経験になりました。



講師： 静岡リハビリテーション病院
作業療法士 串田 英之 氏

7.25 Sat. 高次脳機能障がいセミナー 小児編

こどもの高次脳機能障がいについて、発達障がい支援と絡めながら、双方に活かせる知識や対応、共通点や相違点について学びました。講義の中では医療・教育現場の具体的な支援例/工夫例が多く提示され、困り感をもつこどもの支援について、様々な側面からの理解を深めることができました。

○参加者の声○

はじめて高次脳機能障がいについての様々な話を聞きました。特別支援教育の中に通ずるものもありましたが、高次脳機能障がいについては障害理解を深めて教育活動にあたる必要があることを痛感しました。

講師： 神奈川リハ病院 医師 市川、公認心理師 林
言語聴覚士 荒井、SW 中澤
地域リハ支援センター 作業療法士 清水
秦野支援学校 教諭 福岡 氏

8.22 Sat. 高次脳機能障がいセミナー 理解編

26回目となる今年は、コロナ禍以降最多となる100人を超える方にご参加いただき、高次脳機能障がいの方の地域・社会生活の支援について学びました。病院入院中から地域に切れ目なくつなげるための情報共有の重要性について各講師から講義があり、基本的な視点を改めて考える機会となりました。

○参加者の声○

高次脳機能障害のことが凝縮されたセミナーで、大変学びが多く、参加できて良かったです。高次脳機能障害者支援法が軌道に乗って、今後の支援が進むと良いと思いました。



講師： 神奈川リハ病院 医師 青木、公認心理師 白川
作業療法士 沼田、コーディネーター 佐藤
NPO法人高次脳機能障害友の会スペースナナ 生方氏

9.12 Sat. ADL支援の考え方とハンドリング

PT/OTを対象に、ADL(日常生活動作)支援を行う上で必要な知識や理論を発達や進化の観点から学び、その知識を踏まえた実技では、知覚を促すハンドリング(治療的誘導)を学びました。明日からの臨床場面ですぐに活かせる内容で、受講生と講師の熱心な姿勢が印象的でした。

○参加者の声○

臥位や座位の中でもADLの習得を見据えた介入がたくさんあることを知ることができました。臨床の中でも起居動作を丁寧に行い、知覚を促しながらADL訓練を進めていきたいと思いました。

講師： エフィラグループ株式会社
訪問看護リハビリステーション マカロン平塚
作業療法士 松田 哲也 氏

10.3 Sat. 歩行支援の考え方とハンドリング..

NEW!

今年度より新たに企画した研修で、PT/OTを対象に歩行支援に必要な要素や理論、ハンドリング(治療的誘導)について学びました。対象者のニーズが高い「歩行」について、具体的な評価の視点やポイントの整理、実技を通したハンドリング技術を習得する機会となりました。

○参加者の声○

歩行にはどのような要素が必要か、そのためにどのような準備が必要かについて学ぶことができました。考え方の基礎となる運動学・解剖学の知識も確認しながら進めてもらったためわかりやすかったです。



講師： 神奈川リハ病院 理学療法士 金

11～1月のリハビリテーション専門研修(予定)

視覚障がいのある方への支援	11月 5日 (木)	神奈川リハビリテーション病院
からだにやさしい介助入門	11月14日 (土)	神奈川リハビリテーション病院
高次脳機能障がいセミナー 実務編	12月12日 (土)	神奈川工科大学ITエクステンションセンター
高次脳機能障がいセミナー 就労支援編	^{2027年} 1月23日 (土)	神奈川工科大学ITエクステンションセンター

各研修は、研修開催日の約2ヶ月前からお申し込みいただけます。
ホームページのお申込みフォームよりお申し込みください。

皆様のご参加を
お待ちしております！

高次脳機能障害支援室より

日本高次脳機能障害友の会第22回全国大会2026in新潟

日本高次脳機能障害友の会の全国大会が、今年は10月2日、3日に新潟で開催され参加してきました。

初日に支援コーディネーター研修があり、2日目に全国大会がありました。支援コーディネーター研修は全国から約50名の参加があり、意思決定支援についての講義やグループワークを行いました。全国の支援コーディネーターが顔を合わせる機会は限られており、意見交換を行う貴重な場となりました。

また、全国大会では厚労省や国交省、文科省のガイダンス講演や基調講演、シンポジウム等が行われました。高次脳機能障害者支援法が施行されて初めての全国大会ということもあり、家族会の方々の役割を改めて実感しました。法律では施行後3年での見直しも謳われており、残り2年の中で、全国の差はあるかもしれないが、必要・不要なものを地域の支援を通して訴えていくことが必要だと話がありました。

神奈川県は高次脳機能障害者支援センターの設置に向けて協議しているところです。

当事者やご家族のための支援となるよう私たちの支援を振り返り、さまざまな地域で相談や支援が受けられるような体制の構築を図っていきたいと思います。皆様のご協力やご意見をいただきながら事業を進めたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

<佐藤>

令和8年 4月～9月末の 専門相談実績

()の数字は訪問数

	神経・筋疾患	脊髄障害	脳血管障害	骨関節疾患	後天性脳損傷(除くCVA)	脳性麻痺	知的障害	視覚障害	その他(切断・加齢等)	不明	合計
県央	20(2)		6(0)	1(0)	1(0)	4(0)	1(1)	1(0)	6(1)		40(4)
湘南東部			3(2)						2(0)	1(0)	6(2)
湘南西部	5(1)	5(1)	2(0)			1(0)	2(1)	1(0)			16(3)
県西	1(0)		2(0)								3(0)
横須賀・三浦								2(0)	1(0)		3(0)
横浜市	1(0)							13(0)	1(0)		15(0)
相模原市			3(0)					1(0)			4(0)
県外				2(0)	2(0)						4(0)
合計	27(3)	5(1)	16(2)	3(0)	3(0)	5(0)	3(2)	18(0)	10(1)	1(0)	91(9)

	障害者更生相談所	居宅介護支援事業所	市町村	地域包括支援事業所	本人・家族相談支援事業所	障害者施設	医療機関	訪問看護事業所	保健福祉事務所	高齢者施設	訪問介護事業所	教育機関	その他	合計
県央		3(0)	1(0)		9(0)	4(0)	1(1)	5(1)	1(0)	5(1)			11(1)	40(4)
湘南東部					2(0)			3(2)					1(0)	6(2)
湘南西部		5(1)			3(0)	3(1)				5(1)				16(3)
県西								2(0)		1(0)				3(0)
横須賀・三浦					2(0)			1(0)						3(0)
横浜市				2(0)	11(0)		1(0)	1(0)						15(0)
川崎市														
相模原市					1(0)	1(0)	2(0)							4(0)
県外					3(0)								1(0)	4(0)
合計		8(1)	1(0)	2(0)	31(0)	8(1)	1(1)	12(3)	1(0)	11(2)			13(1)	91(9)

曇りや水害が多く、近年のような酷暑も少なく、夏らしくなかった今年の「夏」も終わり、長雨を経て秋らしい日が増えてきました。秋といえば食欲の秋！おいしいフルーツやスイーツを楽しみ、体重も増加の一途ですが……！秋は研修や学会、イベントも盛りだくさんのシーズンです。勉強も頑張ってカロリーを消費します！ 清水

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢516
神奈川県リハビリテーション支援センター
地域リハビリテーション支援センター
☎ 046-249-2602 FAX 046-249-2601